

9月30日 逍遙 

二之丸跡のすずの  
『そこが聞きたい』のころ

二之丸跡の無常観以上にワタシが聞きたいのは、公武合体推進のため自国の藩士を上意討ちまでした久光なのに、肝心の将軍・徳川慶喜が主導権にこだわり、参与会議も四侯会議も挫折したこと。「もう一度慶喜に会えたら、何を言いたいですか？」と久光公にお聞きしてみたいです。それから、久光公と西郷さんの間にあって、「上司にも部下にも言えない『ちがうだろ』」というサラリーマン川柳をどう思うか、小松帯刀さんに聞いてみたいです。

元々集団とか協力とかに馴染みのない猫のワタシからみれば、人間って本当に面倒な動物。苦勞すると分かっているもお互いの繋がりを求める人間の性は、今「ウイズ コロナ」下の人間を見ているとなおさらよく分かります。

今、二之丸跡の面影を残す高い石垣の上からワタシが見下ろす国道沿いの歩道には、夜長の訪れを待つガス灯の並びと、語らいながら通り過ぎていくマスク顔の人間達。先程は無常がどうのこうのと呟いていた逍遙館長さんが、今度は「9月は『20歳のめぐり逢い』もあるしなあ」と言っていました。

次回「すずにとっての「本丸跡」とは、のころ」

